

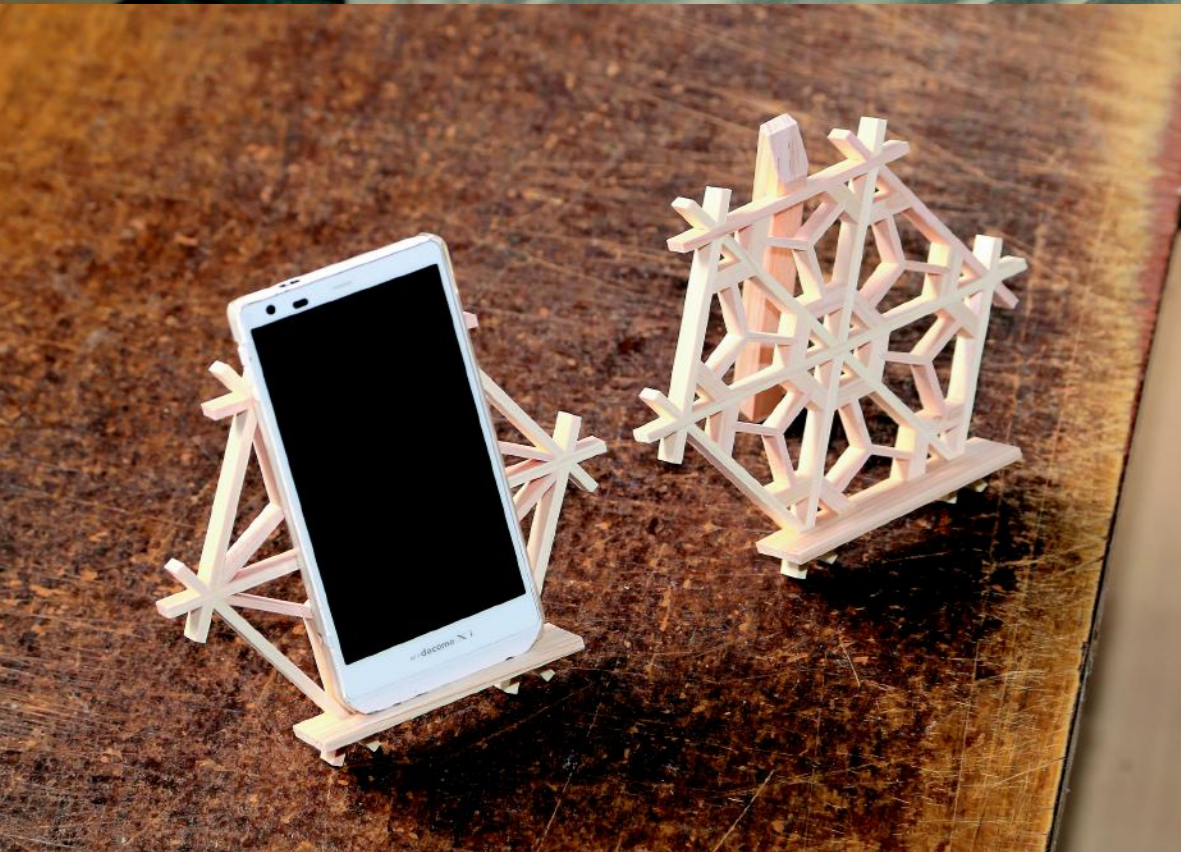
KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

吉原友也

よしはら

ともや



吉原 友也

吉原友也さんは、兄である秀美さん、直幸さんと3人そろって鹿沼の名匠に認定されました。父で師匠でもある幸二さんの下で修業を積み、栃木県伝統工芸士にも認定されています。

市内の高校に通い、授業が終わった後は作業場で製作を手伝っていたそうです。卒業後に18歳で入社し、本格的に鹿沼組子の世界に入りました。

鹿沼組子は、木工のまち鹿沼を代表する工芸品の一つ。木の小片を無数に組み合わせ、麻の葉、胡麻柄、亀甲などの模様を作り出します。欄間、書院障子、つい立など主に和の建築に使われ、空間を引き締めます。

作業場で目を引くのは、特徴的なV字型の刃を持つ鉋。模様によって小片の形を変える必要があるため、V字の角度の異なる大小30以上の鉋を使い分け、小片の端に角度を付けていきます。

製作に当たり、最も重要なこととして3人が口をそろえるのが、一つ一つの小片の精度。わずかでもくるいがあると全体がゆがんでしまうため、木の収縮までも考慮しながら微調整を繰り返し、組み上げていきます。

磨き抜いた技術と経験が、鹿沼組子の美しい幾何学模様を生み出しています。和風建築が減っている中、鹿沼組子の良さを知ってもらうため、洋風の空間への提案や、携帯電話スタンド等の小物の開発にも取り組んでいます。

「鹿沼組子は芸術作品に近い。出来上がったときの美しさ、達成感が組子製作の魅力」と話す友也さん。「丁寧な仕事、きれいな仕上げ。そしてお客さんに喜んでもらえる仕事」を心掛けているそうです。

目標は、まずは父に追いつくこと。そして「この素晴らしい組子の技術を、絶やすことなく後継者に伝えていきたい」と話してくれました。

◆ 鹿沼組子製作

☆ 鹿沼市